

「JENESYS2018」中国青年代表団

参加者の感想（抜粋）

公務員分団

◆今回の視察は、私にとって日本、そして日本の文化や発展の程度をさらによく知る機会になった。中国と比較して、日本の下記の点は参考になると思った。

1. 緻密な管理：製造業で比較すると、中国は日本と同じイノベーション力を備えている。造船業を例に挙げると、今や中国と日本は世界の造船業界において強力な競争相手だ。しかし、日本と比べ、中国の製造業の企業はコスト削減のほうにより力を入れており、製品の耐用年数といった付加価値への関心の程度は日本企業に及ばない。また、協和機電工業株式会社を視察し、同社が行う生産過程の安全管理と品質管理の緻密さが深く印象に残った。生産と販売規模で見ると、同社は大企業とは言えない。しかし、あの規模の企業が管理に費やしている時間としては、中国の同程度、あるいはもっと大きな企業でも比べものにならないほど長いものだった。

2. ルールの遵守：日本では、至るところでルール遵守の意識を感じた。礼儀正しく相手に敬意を示すこともルール、ごみを持ち帰ることもルール、工場では部品をきちんと並べることもルール。暮らしや生産工程の至るところに、見えるルールや見えないルールが隠されている。人々はルールを守って行動し、同時に、ルールを破った人を軽蔑する。そうやって、社会の調和のとれた発展と信用システムを形づくっているのだ。これが日本製品の品質とそのブランド力が信頼されている理由の一つである。

◆日本の文化は深く日本人の心に根ざしたものであり、日本におけるプロフェッショナルというのは、内面から滲み出るものだ。日本人の自分たちの文化に対するアイデンティティー、企業および個人のソフトパワーに対する評価が印象に残った。日本人がどんな心構えで仕事や学びに臨んでいるのか、また、洗練され、丹念で、究極のものを自然と追い求めているのか。そういった姿勢も印象に残った。今回の旅は無駄ではなかった。とても収穫の多いものだった。

気をつけて見ていると、ごみの分類と回収方法がはっきり決まっていることがわかるし、どの交差点を見ても歩行者優先の表示があり、車の停止線と横断歩道に適切な距離が取られていることがわかる。浴室の鏡には曇り止めが施されている。空港で搭乗する際には 22 列目以降の旅客を先に案内する。タバコの自動販売機の前では長い時間立ちすくむことになる。18 歳未満はタバコを買えないというルールが、専用カードで商品を購入して取り出す最後の段階にまで浸透しているからだ。また、ガソリンスタンドのスタッフは、給油しながら車をきれいに拭いてくれる…など、そう、注意を払っていけば、このような発見がたくさんあるのだ。毎回その場所を離れるとき、従業員たちは手を振って見送ってくれる。行くところすべてで、お辞儀して出迎えてくれる。日本人が、こうした数々のことを、細かいところまで手を抜かず、質を保って行えるのは、相手への尊敬や儀礼的な気持ちからだけではないと思った。内面の信仰から発せられるものだと思う。和と敬意を持って、真っ白かつ静かな心で人と接する。勤勉、儉約、専門性、十分な時間をもって国に貢献する。こうした日本の印象は、きっと私の脳裏に一生焼き付き、自分自身が本業で足場を築き、昼夜業務に励み、向上を目指して努力していく上で、役に立つと思う。今回の日本の旅に感謝する。両国の国民の世代にわたる友好と、ともに成長していけることを心から願っている。

◆日本に来たのは2回目だ。1度目は家族と一緒に旅行した。その時は、日本は清潔で、日本人は優しく、何をするにも緻密で細やかだということが、良い思い出として深く印象に残っている。今回は中国青年代表団の一員として再び日本を訪れることができ、とても光栄に思う。日本への理解がさらに深まり、多くのことを学べた。

まず、日本人は何をするにも細やかだ。これは、団員一人一人に配られる日程表やスケジュールの手配、各種資料の内容からも見て取れる。今後、仕事でスケジュールなどを組むことがあれば、彼らのやり方を参考にしたいと思う。

次に、日本人は社会に対する責任感が強いと感じた。三菱重工業株式会社社長崎造船所史料館の展示、とりわけ事故報告についての展示からもそれを感じた。協和機電工業株式会社では、いかなる場所でも安全を第一に考え、「誠実」という標語を掲げていた。また、雲仙岳災害記念館の自然災害と向き合う姿勢、長崎県産業労働部の未来の産業に対する懸念と対策などからも、日本人の責任感の強さを感じた。自分に対して、他人に対して、社会に対して、自然に対して、責任を持つ。時には、環境保護が人類にもたらす影響にまで責任を持っている。

最後に、日本人の文化と礼儀正しさが印象に残っている。どこへ行っても笑顔と挨拶で迎えてくれるので、我が家に帰ったような気持ちになった。

今回の旅は収穫が多かった。中日の文化には違いがあるが、共通している部分も多い。我々は、どちらも相手の気持ちを重視し、伝統文化に従い、善良で愛のある民族だ。今後も中日友好交流のためになる試みを行っていききたい。中日の国民の世代を越えた友好が続くことを願っている。

◆時が経つのは早く、楽しい5日間の旅も終わりを迎えようとしている。もっとたくさんの日本の街を見たいし、もっと日本の科学技術や経済など各方面での発展の状況について知りたいと思うと、少し残念を感じる。もちろん、今回、私たちが経験した交流も、もっと時間がほしいと願うような縁だった。それらはすべて、日中友好会館など日本側の関連機関による心のこもったプログラムや食事の手配、1日のスケジュールの管理、スタッフ一人一人の細やかな気配りのおかげだ。このような貴重な機会をくれた中日双方のすべてのスタッフに感謝している。5日間の日本の旅を、深く記憶に刻みたい。

見るもの聞くもの、すべてが親しみやすく、同時に驚きでもあった。親しみやすさというのは、我々中国人と同じような顔をした人々だということだ。そして驚きというのは、日本人の国民性だ。国の文化というのは世代をわたって传承されていくものであり、社会のルールやマナーもまた、国民一人一人が守っていかなければならないものだ。この数日間で、自分に変化が起きたと感じた。ごみは分別したか？ちゃんと列に並んだか？トレーに取った食べ物は食べきったか？人と目が合ったら微笑んだか？私たちのために働いてくれた人に対して、お礼を言って頭を下げたか…？環境は本当に人を変える。今挙げたことはすべて、私たち一人一人が自発的に、今すぐ行動を起こせばできるものだったのだ。帰国して、まず実践することはこれだ。よりすばらしい自分になることができれば、自分のまわりにも、もっとすばらしく、友好的で、礼節のある人々が生まれるということだ。

成功するかどうかはディテールで決まる。この言葉は、日本にいるとよくわかる。日本は「道」を重んじている。これもまた中日の文化に相通じるところである。物事の道理というのは極めてシンプルなものである。すべてはゼロから、ディテールから始まる。至るところにはっきりと存在する指示や説明、清潔な道路、環境資源の保護、循環型社会の発展の理念…すべてが日本政府の管理が効率が高く、実践的で役に立つことを表している。これが私が今回の訪問で最も印象に残ったことだ。

◆今回の訪問では、日本側が長崎県産業労働部との交流と協和機電工業株式会社の視察を手配してくれた。長崎県産業労働部を訪ねた時は、中国との具体的な違いを明確には感じなかった。政策や産業のプロセス、実施・監督・評価などの方法に関して県庁での紹介や交流の中では触れられておらず、機関の設立・人事などについては広い範囲での比較可能性が欠けていたので、日本政府の施政についてはあまり驚きがなかった。

協和機電工業株式会社は力のある日本的特色を持った企業で、視察では多くの感銘を受けた。中国は改革開放後、日本との交流が密になり、多くの経験を学んできた。日本から多くを学び、今では一部の優秀な中国企業の管理レベルは、日本企業の水準まで近づいている。しかし、日本企業と同じように、企業文化と社員の育成を一貫した道理のもとで行い、100年続く活力に溢れた世界的企業に成長するには、中国企業が進む道のりはまだまだ長い。

日本の都市管理が今回の旅で最も印象に残った。日本の都市の全体的な印象としては、清潔で整然としているが、高層ビルは多くなく、道路も広くない。しかし、崩れ落ちた建物やごみごみした場所は見当たらず、騒々しさや交通渋滞といった中国の都市では日常的に見られる問題が存在しない。公共の施設は人に優しい設計で、市民へのサービス精神がよく表れている。最も感動したのは、日本の都市管理に市民全員が参加しているということだ。市民が、自分たちが街の主人だという自覚を持ち、自主的に地方政府が定める規定を守っている。都市の管理者と被管理者の間に、まるで暗黙の了解があるかのように、同じ目標のもとで行動している。中国の都市では管理者と被管理者の間に対立構造があることと比較すると、明らかな違いがある。対立構造は確実に管理コストを引き上げ、都市管理の負担を増大させる。

農村青年幹部分団

◆今回の訪問は5日間という短い日程だったが、収穫は多かった。日本の風土と民情、経済の発展状況、農村振興戦略、伝統文化について、深く理解することができた。同時に、雲南省の農村青年幹部との交流を通して、貧困支援や末端組織の任期満了に伴う選挙などについてより全面的な理解を得ることができた。

1. 何事も細部まで考え、匠の精神を持つということ。この点については、真剣に日本側のスタッフから学ぼうと思った。特に資料の作成についてだ。非常に念入りに作られている。読者の視点から、相手が何を知りたいのかを考え、注意点を一つずつ明示していた。普段の仕事にも、資料づくりと同じ気持ちで、辛抱強く丁寧に向き合っていきたいと思った。村の人々と丁寧に接するだけでなく、農村青年幹部として、仕事のやり方に注意を払い、よりきめ細やかなサービスで人々の困難や要望を解決していきたいと思う。

2. 心のこもったもてなしと、サービス精神。滞在中に最も感動したことは、日本側のサービスだった。スタッフ、運転手、ホテルの従業員など、皆が熱心に私たちをサポートしてくれた。たとえ言葉が通じなくても、笑顔での対応が温かい気持ちにしてくれた。笑顔は最良のサービスだ。今後仕事をしていく上で、現場組織で働く者として、思いやりや温かさをもって人々に接して交流を深め、相手の状況や要望を考慮し、真剣に考え、どんな仕事も全うしていきたいと思った。

3. 協力を深め、チームとしての意識づくりをすること。長崎県の農業の発展について学ぶ中で、地元農業の振興においては、各民間団体が大きな役割を担っていることがわかった。今後仕事をしていく中で、同じ部門で働く人々との協力に注意を払いたい。他の市町村の農村青年幹部たちと交流や

協力を行い、チームにおける自分の立ち位置を見つけ、チームでの利益を最大化するために自分の強みを発揮して、貢献していきたいと思う。

◆今回の訪日の旅で、隣国である日本の街の美しさ、文化風習、近代化建設など各方面の状況を間近に見て、知ることができた。短い期間だったが、日本側は入念にスケジュールとプログラムを組んでくれた。細かいところまでよく考えられ、活動と活動の間の動きもあらかじめ準備されており、混乱したり混雑する場面はなく、非常に感心した。例えば、ホテルのチェックインや飛行機の搭乗の際、中国では複雑な身分照会とルームカードや搭乗券の受け取り作業をすることになるが、日本側スタッフは事前に準備を済ませ、速やかに配布してくれた。こうしたワンストップ式のサービスは、中国に最も欠けているところである。

長崎県農林部のブリーフでは、主催者側は事前にパワーポイントで作成した詳細な資料やデータ、一目でわかる図表を用意してくれていた。長崎県庁は一般の人も出入りが自由だと聞き、密かに尊敬の念を覚えた。中国の政府機関は、もっとしっかり一般市民との関係づくりを行う必要がある。農場の視察では、土地資源を極めて効果的に利用していることに気づいた。山の上を開拓し、海をふさぎ、荒れ地を再生させる。それらはすべて、同県の綿密な農業への取り組みによるもので、簡単な仕事ではない。匠の精神というのは、農業従事者が真剣に取り組んでこそ発揮されるものだ。環境に優しい農作物は、量産化、集約化されたシステムで生産されて初めて市場で受け入れられ、農業の振興につながる。農村の振興には、知恵と、努力と、イノベーションが必要なのだ。

◆日本での数日間で見聞きしたことを皆に伝えたいと思う。家族や友人に写真を見せて、日本のマナーや食文化を紹介したい。また、おみやげを懐柔区のその他の村の農村青年幹部に贈りたいと思う。もしできるなら、パワーポイントで資料を作成し、農村青年幹部の事務所が開くプレゼンテーションの機会を利用して、今回の旅のすばらしい瞬間を皆に紹介したいと思う。また、積極的に雑誌「懐柔の農村青年幹部」に寄稿したり、懐柔の農村青年幹部事務所に写真を提供したりするつもりだ。日本の農業や林業の発展に関する論文を調べ、優れた農林業の方法をもっと学びたい。また、日本のアニメやマンガ、グルメも引き続き愛していくので、これらについても、家族や友人たちとたくさん交流したいと思う。

◆1. 政府の形態とサービスにおける違い。長崎県農林部の入っている建物は開放的で、中国の庭園式や半開放式の形とは異なっていた。長崎県庁の開放的なビルは、住民が普段から問い合わせやサービスを利用するのに非常に便利だ。この点は、半開放式の中国の機関と比べ、市民にサービスするという行政の姿勢をよく示している。中国の半開放的な建築も中国の国情に基づいたもので、現時点の発展状況には適していると思うが、この点は日本を参考にしたい。

2. 長崎県の環境保全型農業は参考にする価値がある。飯盛有喜地区のニンジンやジャガイモの栽培地の規模と栽培モデルは応用して参考にできると思う。中国の伝統的な農業は、世帯生産請負責任制を中心にしており、農家が自由に売り方を決定している。しかし、この方法は農産物のブランド化には不利である。現地の農業の状況に合わせて、普及促進について研究して土地を整理すべきであり、一定規模の農産物のブランド化は、農家を巻き込んだ上で進めるべきだ。

3. 清潔な環境。東京の空港、市街地や公園、長崎市や長崎県の田畑に至るまで、すべてに共通していたのは「きれい」だということだ。道路、建物、自動車、ドアや窓ガラスなど、触れてもホコリ

ひとつについてこない。日本の気候も関係しているが、それ以上に市民が環境の美化に協力していることが大きく関係しており、とても感心した。1日だけ「きれい」を保つのはたやすいが、毎日その状態が保たれているのは、日本人の自主性や日本政府の指導と密に関わっているのだと、感銘を受けた。

4. 日本人の国民性と、人に対して御礼を忘れない習慣は、人々の幸福度を増大している。滞在中に出会った日本人は、ホテルの従業員であれ、公園で遊ぶ人や商店の従業員であれ、みな「ありがとう」「すみません」と口にする。この感謝の文化は、人に恩を感じる心を日本人に抱かせる。幸福指数も高くなる。日本人の言動からは、今の暮らしへの満足が見て取れる。自分を助けてくれた人や、見知らぬ他人に対しても感謝する様子からは、日本人が人生を大事にしていることが伝わってくる。

◆日本での数日間で、感じたことや学んだことがたくさんあった。これから、日本に来てわかったことを紹介したい。

第一に、日本人はとても親切だ。我々の招聘団体は、至れり尽くせりのお世話をしてくれた。一人一人がとても礼儀正しい。一番驚いたのは、飛行機が発進するときと着陸して旅客が降りるとき、地上作業員が一人一人お辞儀してくれたことだ。これにはとても感心した。

第二に、風景が美しい。日々新しい期待と、新鮮な感覚を与えてもらった。特に長崎の景色は本当に美しかった。日本では田畑自体が風光明媚な観光スポットになっている。食文化も特色があり、とても繊細だ。

第三に、都市部も田舎も清潔だ。日本を旅する間に、ごみが放置されているところを一度も見ることがなかった。また、汚れた車も見かけなかった。工事現場の車でさえ、洗浄されてから出てくるので清潔だった。日本では指定された場所以外で喫煙できない。パブリックスペースでは禁止だ。ごみの廃棄は分別して行わねばならない。こうした細かなところから、日本人の全体的な素養の高さが見て取れる。

まだまだたくさんの感想があるが、ここで一つ一つは紹介しない。とにかく、日本は美しく神秘的なところだった。大都市の喧噪と田舎の静けさ、発達した科学技術と伝統文化を持っている。もし機会があれば、もう一度訪れたいと願っている。